

口頭弁論要旨

私は濱中博と申します。「原発ゼロを目指す宮津・与謝ネットワーク」の事務局長をしており、障害児者の福祉事業所に勤務しています。障害児者（以下では、「仲間」といいます。）の支援に関わる立場から、原発事故が起こった場合の障がいを持つ仲間・家族の避難やその後の避難生活について危惧されることや困難や課題について述べます。

1 障害児者多機能型生活支援センター「ろむ」の事業所の活動・取り組み

私は、京丹後市大宮町の障害児者多機能型生活支援センター「ろむ」に勤務しています。「ろむ」は、「生活介護事業」と「自立訓練事業」「日中一時支援事業」の3事業を行っています。

通所している仲間の人数は約50名です。支援員は約20名で別に送迎のスタッフが10名程います。「ろむ」は、日中の事業所ですので、それぞれの仲間の家に送迎スタッフと支援者が、車で迎えに行き、日中活動を送っています。

多機能型生活支援センターなので、仲間の年齢は、児童から青年、成人、老齢の方など大きく違ってきます。また、発達年齢も、数ヶ月前後から7・8歳ととても広いです。その上、生活面でも食事や排泄・入浴・移動等も全介助の仲間から、一定自立している仲間までいます。障がい実態も重度重複障害でほぼ寝たきりの仲間、高度強度障がいデジッとしておられずに多動で動き回っている仲間、自閉性障害で拘りが強く奇声を発したり、自傷や他傷がある仲間等と多岐にわたっています。

(1) 生活介護事業について

生活介護事業は、仲間の障がい実態や程度・年齢に応じて3班に分かれています。①自分で動き作業に取り組める「てくてく」、②肢体障害や重度重複障がいの「とまと」③成人であり活動的でなく室内での手指を使った軽度作業が中心の「うぐいす」です。各班に数人程度所属しており、生活介護事業利用している仲間の人数は約20名です。

「てくてく」は、年齢は、概ね、20代から30代の青年が数人所属しています。段ボール・アルミ缶回収を行ったり、近隣の農家から野菜を仕入れ、京丹後の市役所や近くのきょうされんに加盟している会社等に販売に出かけていきます。回収した段ボール・アルミ缶は、業者に持っていくと買い取ってくれます。段ボールや野菜の売上げなどから、少額ではありますが、仲間に給料を支払います。

「とまと」は、肢体障害や重度重複障がいの仲間、自閉性障害の重い仲間が数人所属しており、療育活動が中心になります。食事をしたり、お風呂に入ったり、寝たきりで関節が固まってしまうために伸ばす等の機能訓練などをしたりします。

「うぐいす」は、40代から50代の仲間が多く、室内軽作業をしています。具体的には、おりがみ折ったり、音楽を聴いたり、カラオケをしたりしています。また、農家の販売の準備作業もしており、季節の野菜を販売する下処理もします。例えば枝豆をハサミで切ったり、玉葱の皮をむいて袋に入れます。これらの農産物は、スタッフや「てくてく」が販売する事もします。月に一回程度、近くのショッピングセンターなどに外出することもあり、食品を販売した売上げは、仲間が外出した際のお菓子や代昼食代等に使います。

(2) 生活自立訓練事業

生活自立訓練事業「きらり」の班は、与謝の海支援学校高等部卒業後の学習や社会体験をすう学びの場です。

高等部卒業後ですので、18才から20才の仲間が所属しています。原則2年間の有期事業です。「きらり」の利用者は数名です。

性教育、肢体障がいの学習、自然科学の学習などを行っています。肢体障がいの学習では、例えば、アイマスクを使って視覚障がい者の体験、車いすにのる体験などを行います。自然科学の学習では、網野町の鳴き砂博物館に行ったり、丹後町の立岩の見学に行ったりします。自分達の住んでいる地域を知る勉強をしています。

(3) 日中一時支援事業

日中一時支援事業は、支援学校の放課後の児童・生徒の活動を補償します。例えば、支援学校のスクールバスの下校後支援の場です。しかし、学校が長期休業中の春・夏・冬休みの時は、朝迎えに行つて夕方まで療育活動を行っています。利用者は約10名です。

2 避難の困難性

(1) 避難先への移動の困難性

「ろむ」の仲間の障がい実態は、重度重複障害、高度強度障害、自閉性障害等と多岐にわたっています。自閉性障害の拘りの強い仲間は日常の生活が少し変化するとパニック障害や、自傷・他傷等の否定行動が表れたりします。強度行動障害の仲間もいて、送迎の車の中で、突然に隣の仲間の髪を引っ張ったり、周りの仲間や指導者に噛みつく仲間もいます。日常と少し違うだけでパニックを起こします。また、走行中でもシートベルトを外して車外に出ようとしたりします。自分の日常と違うと座り込んで何時間も動こうとせずに座り込んでしまいます。事故の起こった時間によっても、昼間と夜間で対応が違ってきます。事業所開所時に事故が発生すれば、保護者にどこで、仲間を渡すのか等のマニュアルは全くありません。

仮に、大飯原発で事故が起きた場合、どうやって避難したら良いのでしょうか。具体的な日々の生活を想定すると、避難はより一層困難だと思います。日中、生活介護事業の仲間が、外出先で段ボール・アルミ缶を回収している際に、原発事故が起きた場合、スタッフだけでは一人一人の安全を確保して避難することなど不可能です。肢体障害や重度重複障がいの仲間が、食事をしたり、お風呂に入ったりしたりしている際に、原発事故が起きた場合、どうやって避難したら良いのでしょうか。生活自立訓練事業の仲間が、学習を行っている際に、原発事故が起きたらどうでしょうか。特に、水族館や植物園などに外出し、普段とは違う環境にいる場合、仲間がパニックになるとスタッフだけでは、安全な場所に移動することはさらに困難です。

フクシマでは、避難場所やバス移動の際、強度行動障害やパニック障害のために、避難所から離れて家族と車での避難生活になり、困難を極めた事などの報告が沢山ありました。

(2) 避難先での問題

避難場所での生活は、体育館などの広い大きな施設の可能性が高く、多くの人たちが集まり、ダンボール一枚だけで仕切られているために大きな声や雑音・騒音がします。それが屋内では反響しパニックになり、奇声を発したりすることは火を見るより明らかです。

彼らとその家族にとっては耐えられないものとなるのが当初から予想されますが、計画にはそのような配慮やノウハウは全くなく、具体的な対応がなされようとしていません。

それは障害児者の特性が多様であるために仕方がないのかも知れません。しかし、避難場所を健常の人たちと違う場所にする。別の部屋を準備する等の具体的な対応が絶対に必要になります。計画段階で、行政が障害者施設の職員や保護者に実態を

丁寧に聞き取り、要望をまとめて避難場所や計画を作成しなければなりません、それは全く行われていません。障害者団体の要望には上がっていますが、具体化していません。その上で、フクシマ原発事故の放射能汚染の障害者の避難や、その後の生活についての貴重な教訓が細部に渡って生かす必要があります。

(3) 重度肢体障害の仲間

また、電動車椅子などを利用する重度肢体障害の仲間も通所しておられ、その避難方法や避難先の生活については行政は考える段階に至っていません。彼らは移動は勿論、食事や排泄も全介助であるため、健常の人たちとの避難所の併用利用は絶対にできません。

3 避難計画の問題点

京丹後市防災会議は、令和4年3月、京丹後市地域防災計画原子力災害対策編を作成しました。同計画では、「一般の避難所では生活することが困難な障害者等の要配慮者のため、介護保険 施設、障害者支援施設等の福祉避難所の指定に努めるものとする」(20頁)の記載はありますが、具体的に障がい者の障がいの程度を踏まえた避難場所の指定はありません。京都北部の自治体行政で障害者の避難場所の指定があるものの、健常者と同じ避難施設となっています。まさに障がい者本人と家族、そして通所事業所やその職員に自己責任を押しつけるものとなっています。同避難計画では、「3 避難行動要支援者に関する措置」(22頁)「4 要配慮者の避難誘導・搬送体制等の整備」(22頁)などの記載は、ありますが、具体性は一切ありません。京丹後市防災会議は、令和4年3月、京丹後市地域防災計画原子力災害対策編を何度も改訂していますが、避難については、全く具体性が無いままです。

避難計画について、障がい者福祉施設や障害児者の親の会、視覚・聴覚障害者等で構成する「京都北部障害者団体連絡会」「京丹後障害者団体連絡会」が、その具体化についての行政への申し入れを毎年しています。例えば、「ろむ」の災害時の第1次避難所は近くの保育所となっており、トイレは幼児用で成人の障害者用の対応がなされていません。

しかしコロナ禍の今、避難場所の体育館などの収容人数、バス避難の場合の人数制限やその方法などの見直しや検討について、現在では具体的な提示がなされていません。

私は、回答しないのでは無く、一人一人の障がい実態が異なるため、一人一人に応じた具体的な避難計画の作成など出来ないのだと思います。

国の責任で原発を再稼働させるのですから、国と電力会社はその責任を負い、自治体に丸投げするので無く、実効性のある具体的な対策を講じるべきです。

しかし、「ろむ」の仲間一人一人の障がいの実態を考えると、実効性のある具体的な対策を講じるなど不可能です。

4 裁判所に望むもの

原発事故は、自然災害で無く人災です。福島事故が起こって12年目を迎え、マスコミで国民に現在のフクシマの状況について知られることがどんどんと無くなり、避難や復興の様子が知らされていません。京都北部でも障がい者の避難計画が作成されること無く放置されています。

原子力災害の非情さは、「ふるさと」と「生業」を根こそぎ奪うものです。豊かな自然と悠久の歴史育まれた丹後半島、日本三景の天橋立、伊根町の舟屋群の貴重な景観と自然を根こそぎ奪う福井の大飯・高浜原発の運転差し止めを強く要望します。

以上